福島県における近年のサケ来遊状況

福島県水産試験場　栽培漁業部

1 部門名

水産業ー栽培漁業ーサケ

2 担当者

新関晃司

3 要旨

秋季の沿岸漁業において重要なサケについて、漁獲統計の整理及び木戸川における採鱗調査を行い、平成22年度の来遊状況を整理した。また、近年の来遊の傾向を整理した。

(1) 平成22年度におけるサケ漁獲尾数は、海面漁獲が111,246尾、河川捕獲が120,965尾、合計232,211尾であり、過去10年の中では平成12年度の165,047尾に次ぐ少ない漁獲尾数であった。過去10年の平均漁獲尾数は357,646尾であり、平成22年度の漁獲尾数は平年比の65%であった。

(2) 平成22年度のサケの年齢構成は2歳魚2%、3歳魚25%、4歳魚40%、5歳魚31%、6歳魚2%であった。例年に比べ4歳魚の割合が低く、3歳魚と5歳魚の割合が高かった。

(3) 平成22年度と至近10年の、当該年度における全漁獲に占める累積旬別漁獲割合を整理した。海面については、平成12年から平成15年までは10月末時点の割合が78%～82%であるのに対し、平成16年から平成22年までは39%～75%であった。河川については、平成12年から平成15年までは10月末時点の割合が53%～64%であるのに対し、平成16年から平成22年までは27%～56%であった。近年のサケ来遊時期が徐々に遅れてきている傾向が認められた。

(4) 水温とサケ来遊時期についての関係を把握するため、9月の大熊定地水温の平年偏差の平均値と、その年の全漁獲に占める10月末時点累積漁獲割合の平年差との関係を整理した。平成12年度を除き、水温が低い年は来遊時期が早く、水温が高い年は来遊時期が遅くなる傾向が認められた。

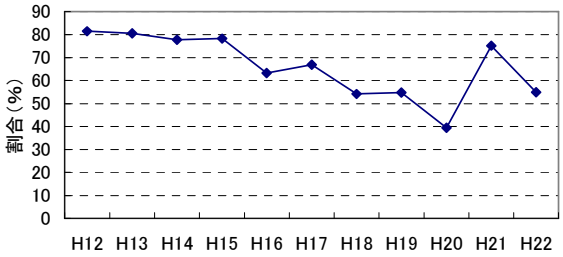

図1　海面における全漁獲量に占める10月末時点の累積漁獲量の割合

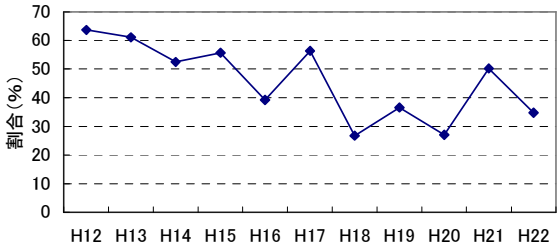

図2　河川における全採捕数に占める10月末時点の累積採捕数の割合

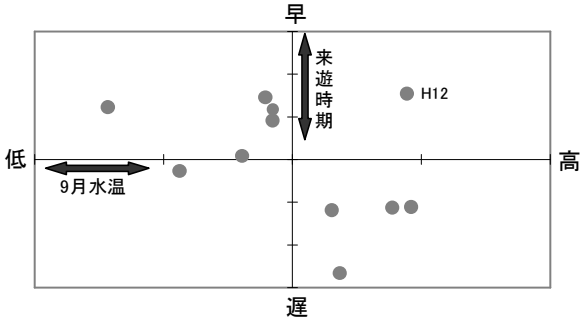

図3　海面におけるサケ来遊時期と水温の関係

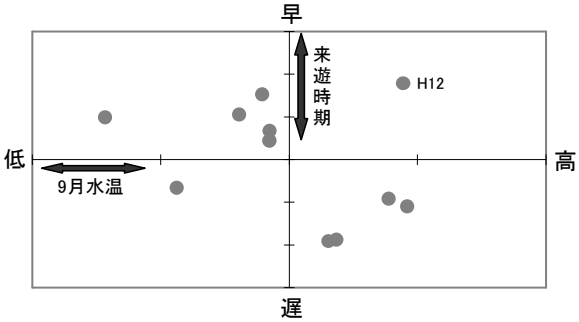

図4　河川におけるサケ来遊時期と水温の関係

4 主な参考文献・資料

なし